



ART

FILE

13

Taito-ku
Art Project
Archive
2008→2017

平成25年度

企画

- HAGISOパフォーマンスプロジェクト「居間 theater」
- STORE HOUSE Collection 日韓演劇週間<生きる> ことの考察 コルモッキル(韓国)VS温泉ドラゴン(日本)
- 街の音プロジェクト in 合羽橋～道具 de アンサンブル～
- DANCE TRUCK PROJECT:2013
- 台東スタディーズ2 (P42)

短評

音楽や演劇、ダンスなど初めて6つの作品が採択された25年度。NPO法人の団体から申請された『DANCE TRUCK PROJECT:2013』は、4トラックの荷台スペースを舞台に、コンテンポラリーダンスを中心としたパフォーマンスを昼間のプレ公演と夜の本公演という二部構成で開催。普段は全国で活動している団体が台東区を舞台に選んでくれたことに審査員一同喜びを感じ、結束力がまた一段と高まった年となりました。

ART

DANCE

MUSIC

DRAMA

OTHER



photo by bozzo



タビユーと、本番の記録をドキュメンタリータッチで描く作品。●居間 theater 1周年記念ダンス公演…居間 theaterがデュオ作品2本をプロデュース。「キッチン、リビング、奥の部屋、ステージ」「幽霊の技法」。



vol.5の様子

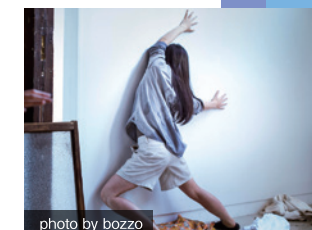


photo by bozzo

ダンス公演の様子



photo by bozzo

ダンス公演の様子

企画者からのコメント

初年度に支援を受けることで安定的に活動することができました。実験的な活動だと後回しになりがちなアーカイブに対して支援をいただいたので、記録を残し、後に活動の広報資料として活用することができました。現在は、HAGISOや関連施設にてパフォーマンスプロジェクトを継続的に行っているほか、他地域の文化事業への作品提供や、企業のイベント企画、個人のパーティ演出など多岐にわたる活動を行っています。



1周年記念プログラムチラシ



1周年記念プログラムチラシ

Title

HAGISO パフォーマンスプロジェクト
居間 theater

主催者

HAGISO 居間 theater

開催期間

2013.07.25—2014.03.16

会場

HAGISO

最小文化複合施設・HAGISOを拠点に作る パフォーマンス作品

『HAGISO パフォーマンスプロジェクト「居間 theater」』は、演劇やダンスを背景にもつメンバーを中心とするパフォーマンスプロジェクトで、2013年から谷中にある最小文化複合施設HAGISOを拠点に活動しています。音楽家や美術家、建築家との共同制作をはじめ、カフェや移動図書館、まちあるきツアー、区役所などの、「場」そのものともコラボレーションを行い、パフォーマンスのあり方を探っています。現実(日常)にある状況やふるまいとパフォーマンス(非日常)を掛け合わせることで、誰でも参加可能でありながら、現実を異化させるような独特の体験型作品をつくり上げてきました。

【開催状況】

2013年度は、vol.1～7(内、3～7が

支援対象)のイベントを行ったほか、1年間のプロジェクトの集大成として、「パフォーマンスカフェ」[上映]「ダンス公演」の3つのプログラムを開催しました。●vol.3 佐藤公哉×居間 theater…ダンスのバックミュージックではなく、音楽の背景としてダンスを存在させる、舞台美術・背景・風景としてダンスを配置する試み。●vol.4 HAGI CAFE×日本大学佐藤慎也研究室×居間 theater「HAGISO パフォーマンスカフェ」…パフォーマンスを食事と同様に注文できる。ジュークボックスの音楽のように、パフォーマンスを店内の環境の一部として行う試み。●vol.5 やなかこども文庫×居間 theater「パフォーマンスこども文庫「すてきな三にんぐみ」」…想像力が詰まった絵本をパフォーマンスとして展開する試み。●vol.6 東京藝術大学建築科1年生椅子展×

居間 theater「巨人の椅子」…展示空間にパフォーマンスを「展示する」という試み。●vol.7 谷中音楽室×居間 theater「ハギスマス☆ファンタジーな夜」…音楽とパフォーマンスによるクリスマスイベントを開催。●HAGISO 1周年記念「HAGISO パフォーマンスカフェ」…オープン1周年のお祝いイベントとして、多様なアーティストによるパフォーマンスを食事やドリンクと同様に注文できる「パフォーマンスカフェ」を開催。●上映「居間 theater Documentary Films (2013—2014)」…1年を通して実施した「居間 theater」のパフォーマンスを、2人の作家がそれぞれの視点で記録・編集し映像作品を制作。●有川滋男「IMA THEATER」…パフォーマンスを作家の視点から捉えなおし、HAGISOを舞台にした別の物語のように仕立てた作品。●みかなぎともこ「Trace of a Performing」…制作過程とそれに伴う思考の変化を追うイン



HAGISO

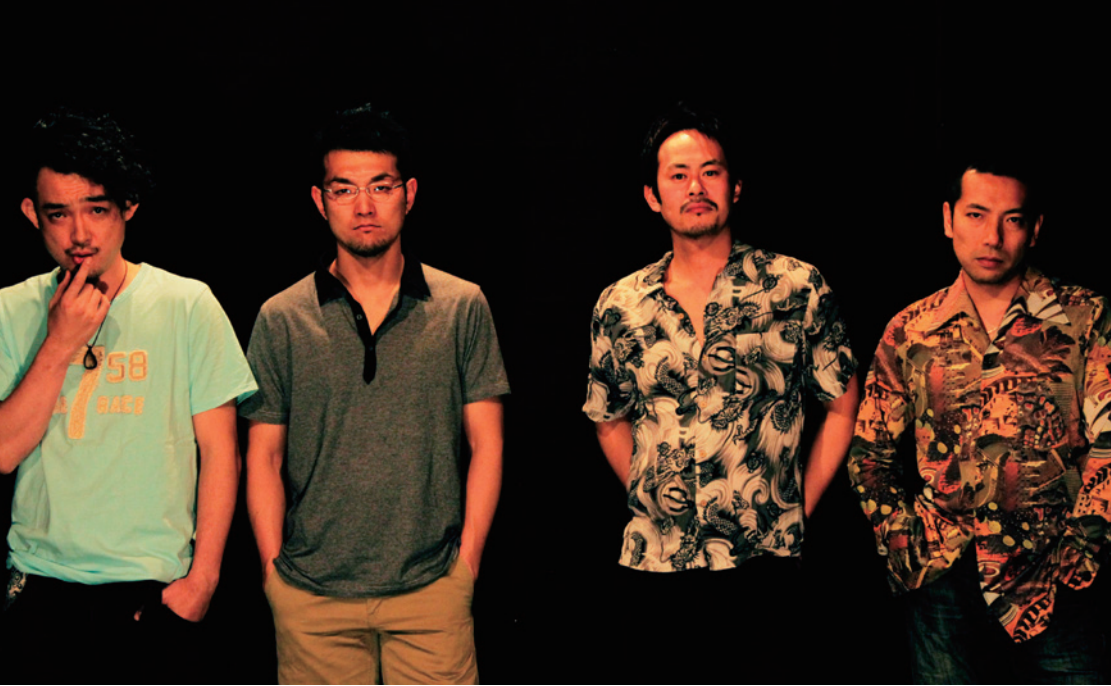
ART

DANCE

MUSIC

DRAMA

OTHER



Title
STORE HOUSE Collection
日韓演劇週間「生きる」ことの考察

主催者
上野ストアハウス
開催期間
2013.09.11—16
会場
上野ストアハウス



ストアハウス

「生きる」ことをテーマにぶつかり合う！

「上野ストアハウス」は、2011年に演劇・ダンス・舞踊・音楽などジャンルを超えてさまざまなアートの発信地になると考え、北上野に構えた劇場です。ストアハウスコレクションは、ストアハウスの自主企画による主催事業の総称で、ストアハウスが観たい芝居、ストアハウスが観てほしい芝居をみなさんにお届けしています。記念すべき第1回として開催した本公演は、「生きる」を共通のテーマに、東京を中心に活動する若手劇団「温泉ドラゴン」と韓国の現代演劇を代表するパク・グニョンが主催する「劇団コルモッキル」の日韓2つの劇団の公演を続けて上演しました。共通のテーマをもとに繰り広げられた公演は、2つの劇団の共通点や相違点を考えさせられるものとなりました。

【開催状況】

◎温泉ドラゴン「birth」。2010年に阪本篤、筑波竜一、シライケイタ、いわいのぶ健、原田ゆうの5名で結成された劇団。人間の生と死を見つめた骨太な作品を上演しています。(あらすじ)…東京の裏町で刹那的に生きる30代半ばの二人の男。そこへ古くからの仲間が現れ「オレオレ詐欺」を持ちかける。「俺だよ、俺。」「浅はかな誘いにのり、かけた電話はつながるはずのない過去につながっていた。(企画・演出内容)…自分たちが生まれてきたということ、生きていくということという、人類にとって普遍的、根源的な問いかけをテーマに、「生」に対して真っ直ぐに向き合った作品を目指しました。中央に置かれた冷蔵庫のみという、シンプルなセットを舞台に、男たちが暴れ、叫びながらストーリーが展開していきます。◎コルモッキル「鼠(ねずみ)一人を殺め

るにも順序と方法があるんだよ！」劇作家・演出家パク・グニョンを中心に1999年に結成。「コルモッキル」は、「路地・裏通り」を意味する。都市の中にひっそりと生きる庶民の日常の中から想を得て、現代の様々な問題を大胆かつユーモラスに描いた作品を上演しています。(あらすじ)…水害で疲弊し、鼠が猛威をふるう都市。その片隅でかろうじて生きる一家の物語。この家族には礼儀、誠実さ、信頼と希望が溢れている。しかし、劇の中盤に至り、彼らが人を捕えて食べながら生きていることが明らかになる。殺戮と食人はあまりにも日常的にハッピーに行われる。(企画・演出内容)…一見何ということはないが少し別の視点から見ると、互いに肉を食べ、暴力を行使し、それでいて罪悪感など、感じずに生きている現代人の生を、ヒヤリとするタッチで絶妙に描きました。劇中は、韓国語には字幕を付けることで、ストーリーを追うこと

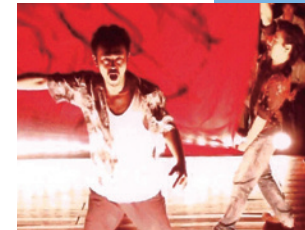
ができるようにしました。公演終了後に実施した「ポストパフォーマンストーク」では、両劇団の紹介・演出家により作品の意図説明・観客からの質問を受ける時間を設けました。参加者・観客からは、2か国の作品を並べて見ることができるとは無いので、興味深くとても刺激になったとの感想を多くいただきました。



コルモッキル

企画者からのコメント

支援制度を受けたことにより、韓国劇団の渡航費がカバーでき、運営上、大変助かりました。区役所の職員の方々も大勢ご来場いただき、ふだん演劇を見る習慣がない方の感想も参考になりました。その後も「ストアハウスコレクション」を、韓国だけでなくマレーシア・タイ等に拡大して継続中です。ストアハウスコレクションを契機に韓国公演が実現したり、ネットワークが広がっています。



温泉ドラゴン



チラシ



メンバー

ART

DANCE

MUSIC

DRAMA

OTHER



Title
街の音プロジェクト

主催者
街の音プロジェクト実行委員会

開催期間【平成25年度】
2013.10.05—06

開催期間【平成26年度】
2014.10.12—13

会場【平成25/26年度】
台東区立生涯学習センター、
合羽橋道具街

調理道具を使ったパーカッション・アンサンブル♪ 道具の街・合羽橋より発信!!

『街の音プロジェクト in 合羽橋「道具deアンサンブル」』は、道具の街として約100年の歴史をもつ「合羽橋道具街」を舞台に、プロのミュージシャン達と一般公募による参加者で、街の象徴である「道具」を使った音楽づくりワークショップを行い、道具によるアンサンブル隊としてパレード演奏・コンサートを行う体験型の音楽イベントです。パレード・コンサートの出演・ワークショップの講師は、「琴」=木琴&鉄琴、「鼓」=チャンゴ&ドラム、「管」=サクソ&フルートといった異色の楽器編成で、チャンゴとドラムによる「極東」のグルーブ感を軸に、オリジナル曲の他、欧羅巴、南米、ロック、民謡、伝統曲と様々なアレンジ・演奏をするグループ「琴鼓n管(キンコンカン)」が担当しました。

【開催状況】

2013年度は、合羽橋道具街通りにある生涯学習センターを会場に全2日間のプログラムを開催。1日目の音楽づくりワークショップは、子どもから大人まで幅広い年代の約25名が参加してくれました。ワークショップ前に、調理道具の提供や練り歩きパレードなどをご協力いただいた、東京合羽橋商店街振興組合の副理事長から合羽橋道具街の成り立ちをお話いただきました。参加者は、寸胴鍋、ボール、柄杓、フライパンなどの道具の中から好きなものを選び、自分だけの楽器を作成。道具が決まったら、それぞれの道具からどんな音が出るのかを確認し、道具街の練り歩きパレードに向け、歩きながら演奏をする練習を行いました。2日目は、練り歩きパレード・コンサートに備え、それぞれ担当する調理道具の音と動きを最終確認。練り歩きパレード

は、菊屋橋交差点の「ニイミ洋食器店」前をスタートし、生涯学習センターまでの合羽橋道具街通りを練り歩きます。道具を片手にリズムを奏でる姿に道行く人たちも立ち止まり、たくさんの方が見学していました。最後はワークショップ参加者と講師の「琴鼓n管」メンバーによるコンサートを開催しました。2014年度には、道具街振興組合や道具街の方々にご協力いただき、「合羽橋道具まつり」の一環として2度目の開催が実現しました。今回新しい試みとして「打楽器編」に加え「管楽器編」のワークショップを実施しました。「管楽器編」では、業務用のホースに、管楽器のマウスピースやマウスピースの代わりとなるクリームの絞り袋用口金を付け、吹き口部分を作ります。ホースには漏斗ややかなどの道具街ならではの調理器具をつけてオリジナルの管楽器「合羽橋ラッパ」を作り、打楽器と両方を使って音を出す練習を行い、翌日のパレードに備えます。パレ

ド当日は残念ながら悪天候のため予定していた合羽橋道具街でのパレードは中止となりましたが、代わりに普段音楽コンサートなどを開催しているミレニアムホールでコンサート公演を実施しました。会場変更というハプニングもありましたが、2回目の実施も大盛況のうちに終えることが出来ました。



第1回ワークショップの様子

企画者からのコメント

東京合羽橋商店街振興組合へ協力依頼にあたっての仲介をはじめ生涯学習センター利用の調整や広報面といったご協力、また地元で所縁のあるアドバイザーの方には人脈を通じてこちらが必要とする人やお店を紹介して頂くなど、合羽橋との関係性が無かった中、企画を実現するにあたって多大なるご支援・ご協力を頂きました。支援制度実施後、この企画を知った某団体よりお声がけ頂き、「道具deアンサンブル」の出演メンバーとその土地に因んだ内容で体験型イベントを実施する事が出来ました。



第2回ワークショップの様子



チラシ



メンバー

ART

DANCE

MUSIC

DRAMA

OTHER



の映像プロジェクションなど、これまでのダンストラック公演とは異なる演出に取り組みました。初の東京公演ということもあり、これまで公演に足を運んでいなかったダンス批評家が参加するなど、本プロジェクトの理解拡大に繋がりました。



鈴木ユキオ公演の様子



白井剛公演の様子



パンダ広場公演の様子

企画者からのコメント

初の東京公演でしたが、資金のみならず、会場及び近隣の交渉にご協力いただき実現できました。当初予定のなかった御徒町の駅前広場でも実施できたことで、予期しない反応が得られ、翌年度以降の事業計画を見直すきっかけになりました。その後も地域のアートフェスティバルと連携し各地で活動を展開(ニューブランシュ KYOTO / TRANS ARTS TOKYO / スマートイルミネーション横浜 / ベップ・アート・マンス / 六本木アートナイト)。認知を高めることができました。



チラシ

Title
DANCE TRUCK PROJECT:
2013

ダンスにおける新たな mobility (機動性・移動性) を探るプロジェクト

主催者
NPO 法人
Offsite Dance Project

開催期間
2013.10.10

会場
台東区立旧下谷小学校校庭、
御徒町南口駅前広場

『DANCE TRUCK PROJECT』は、トラックの荷台スペースを移動可能な特設ステージとして使用し、周囲の景観を取り込んだサイトスペシフィックなプロジェクトです。3回目を迎える3都市公演の一つとして、初の東京公演である台東区での開催が実現しました。NPO 法人 Offsite Dance Project は、劇場以外の公共交通機関や近代建築、公園、商業空間、空き店舗、ストリートなどの様々な場所でダンスを軸としたパフォーマンスを推進するチームとして、2008年に結成。横浜を拠点に国内外の都市空間でアクセスビリティの高いパフォーマンスプロジェクトを企画・制作し、身の周りの様々な空間や環境を作品に取り込むことで、ダンスそのものの領域や可能性を広げ、アーティストの想像力や観客の眼差しに新たな刺激となる体験をつくり出し

ます。主な活動のひとつでもある『DANCE TRUCK PROJECT』は、米アトランタのNPOと連携し、NPO 法人 Offsite Dance Project と全日本ダンストラック協会との共同制作で2012年から開始しました。コンテンポラリーダンスを軸に多分野の先鋭的なアーティストが参加し、さまざまな都市とネットワークし、街中の空き地の有効活用、ダンスにおける新たな mobility (機動性・移動性) を探っています。

開催状況

台東区の2つのサイトにて、無料/有料公演を同日開催。無料のプレパフォーマンスでは、御徒町の駅前広場、本公演では廃校の校庭を使用し、異なる客層にダンストラックの体験を提供しました。プレパフォーマンスとなった会場は、JR御徒町駅近くの御徒町

南口駅前広場(おかちまちパンダ広場)。4tトラックを駐車し、パフォーマー2名による約20分間の無料パフォーマンスを開催し、通りすがりの人々が偶然にパフォーマンスに遭遇する機会を提供。突如街中に現れた移動式パフォーマンス空間は、御徒町駅付近のサラリーマンや家族連れなど、普段劇場には来場しない広範囲な世代の人たちへの効果的なアピールとなりました。本公演の出演者には、日本のコンテンポラリーダンスを牽引する振付家・ダンサー等のアーティスト4組(白井剛・東野祥子・鈴木ユキオ・JON(犬))が参加。今回の企画のため、廃校となり普段一般の方が入ることができない台東区立旧下谷小学校の校庭を特別に開放してもらいました。また本公演では、台東区にアトリエを構え国際的に活躍をしている衣装家・堂本教子が美術協力として空間美術を担当したほか、映像を担当する斉藤洋平による廃校の校舎部分への大型